

# 平成28年度 第38回沖縄県「少年の主張大会」

## —いま 中学生が訴えたいこと—

平成28年9月23日（金）に、豊見城市立中央公民館大ホールにて、350名の聴衆を迎え、第38回沖縄県「少年の主張大会」が開催されました。

県内6地区大会にて選ばれた、12名の中学生が自らの体験を通して得た意見や提言を堂々と発表し、聴衆に深い感銘を与えました。

また、聴衆として参加した伊良波中学校の生徒の聞く態度良さやアトラクションの空手演武の熱演も相まって、成功裏に終了しました。



### 38回沖縄県「少年の主張大会」出場者

| 賞      | 氏名     | 地区  | 学校・学年  | 演題            |
|--------|--------|-----|--------|---------------|
| 最優秀賞   | 渡具知 和紀 | 国頭  | 久志中3年  | 聞こえない、それが私らしさ |
| 優秀賞    | 平田 夢明乃 | 那覇  | 神森中3年  | 「私が大切にしたいもの」  |
| 優秀賞    | 坂元 星奈  | 那覇  | 城北中3年  | 未来へつながる一歩     |
| 審査員特別賞 | 山川 純奈  | 中頭  | 越来中3年  | 家族の大切さ        |
| 優良賞    | 末吉 夢望  | 那覇  | 安岡中3年  | ボランティア「繋がり」   |
| 優良賞    | 石嶺 杏奈  | 中頭  | 読谷中3年  | 命の重さ、感じていますか  |
| 優良賞    | 嶺井 泰志  | 八重山 | 石垣第二中  | おじいの音色        |
| 優良賞    | 砂川 海空  | 島尻  | 与那原中3年 | 独りじゃないから      |
| 優良賞    | 岸本 陽向  | 国頭  | 羽地中3年  | 我が家のルール       |
| 優良賞    | 平良 由依  | 宮古  | 北中3年   | 自分の物語を生きる     |
| 優良賞    | 新垣 奈未  | 島尻  | 東風平中3年 | 目は口ほどにものを言う？  |
| 優良賞    | 胡屋 龍汰  | 中頭  | 中城中3年  | 人は変われる、強くなれる  |

会場の様子



開会式



発表者



アトラクション（伊良波中）



発表風景



表彰式





## 「聞こえない、それが自分らしさ」

名護市立緑風学園久志中学校三年

渡久知 和紀



「生きてる。それだけで十分幸せ。」私は、ある日からそう思えるようになりました。私は、耳に障がいを持っています。学校はろう学校ではなく普通の学校に通い、健聴者と一緒に勉強や部活動を頑張ってきましたが、「聞こえない」事で皆と同時に笑い合う事が出来ず、必死に作り笑いを浮かべる毎日……。いつしか、「本当の自分が分からなくなっていました。でも、「聞こえないから出来ない」と周りに思われたくない」という負けず嫌いな性格で小さい頃から、琉球舞踊や演劇など、色々な事にチャレンジしてきました。演劇の時、私は練習の時から相手の性格やセリフの速さなど常に本番をイメージし、耳を働かせるのではなく五感を働かせ、本番では堂々と演じました。「ハンディを感じさせないね。」と多くの人にほめられ、聞こえない壁を乗り越えたという達成感を味わいました。その事で、努力することが楽しいと思えるようになりました。けれども、「聞こえない」という現実はず変わらず、心が痛くなり「一人ぼっち」でいる事には変わりはありませんでした。しかし、そんな辛い日々がある出会いによって大きく変わったのです。これまでは手話を使う事に、とても抵抗を感じていた私でしたが、私のために必死に練習して手話で堂々と話す先輩の姿や「神様はその人に乗り越えられない試練は与えない。」という言葉が贈られ、「私も普通に手話をやっていいんだ。」と考えられるようになりました。

皆の前で抵抗なく手話を使えるようになり、「これも私らしさなんだ。」と少しずつではありますが素直に受け入れることが出来るようになってきた頃、ろう学校の体験授業で私は保健体育の先生と出会ったのです。先生も耳に障がいを持っていますが、「耳が聞こえない」のは自分の個性なんだと言っているかのように

どんな時でも笑顔の絶えないステキな私の憧れです。同じ障がいを持っているからこそ初めて会った時から不思議なほど何でも話せる。私にとって大切な存在です。

「あなたがあなたらしく見られる日が来る。」ある時、先生から贈られた言葉です。友達と素直になれなくてうまくいかない時、私はいつもその言葉を思い出して励まされています。私の気持ちを理解してくれる。先輩と先生に出会う前の私は、「聞こえない」という現実に対してマイナス思考の毎日でした。けれど二人に出会ってからは何事にも前向きに考えられるようになりました。そしていつの日か「ろう学校の先生になりたい。」という夢ができたのです。生徒の悩みを聞き、その悩みに共感し、私が今まで多くの辛さをどうやって乗り越えてきたのかをアドバイスする事で生徒を心から笑顔にしてあげたいのです。

私達の身の周りには風の音や時計の針が動く音などかすかな音が無数に存在します。しかし、聞こえない人にとっては風の音も時計の音もない世界が日常です。その聞こえない世界を健聴者に伝え、どんな場所に行っても健聴者が自然に手話を受け入れる。誰もが「障がいの壁はないんだ。」と当たり前と言えるように二つの世界の架け橋になりたいのです。手話ボランティアに参加したり、機会を作って、自分の体験談を話したり、積極的に話しかけたりなど、できる事はまだ、たくさんあります。

「障がいは不便ですが、不幸ではありません。」この言葉を私は、多くの人に伝えていきたいです。二人との出会いは私に、「前向きな心」「生きる喜び」を教えてくださいました。二人に出会えた事に感謝し、どんな時でも私だからこそ出来る事を考えて、これからも前を向いて頑張っていきます。「生きてる。それだけで充分幸せ。」そう思える自分を、私は誇りに思います。

